

平成 25 年度通常総会

総務委員会

東北地質調査業協会の平成25年度通常総会は、平成25年5月13日に仙台市宮城野区の「仙台ガーデンパレス」に於いて開催されました。会員総数48社の内、出席33社、委任状提出14社で過半数以上の出席が得られ、ここに総会成立を併せて報告致します。

通常総会は、平成24年度の事業報告と収支報告、平成25年度事業計画案と予算案、役員の変更が主な内容であり、以下に概要を報告します。

1. 早坂理事長挨拶

本日はお忙しい中、東北地質調査業協会の平成25年度通常総会に出席していただき、大変ありがたく思っております。会員数は、昨年度に比べ1社減少し、48社になりましたが、これからも会員皆さまの協力のもと、増加に勤めていきたいと思っております。

さて、一昨年3月11日に発生した未曾有の大震災「東日本大震災」が、一昨日で、2年2ヶ月を過ぎました。死者・行方不明が1万9千人、震災後に震災関連で亡くなった方が2000人を超えており、全体で2万人を超す犠牲者となっております。国や県及び自治体では、一昨年来、復旧・復興に取り組んでおりますが、その歩みは未だ遅く、今後の更なる早急な復旧・復興事業がなされるよう希望するところです。特に、福島県は、放射能汚染という極めて深刻な状態が続いております。しっかりと科学的・技術的裏づけの元に、今後の除染の方法・工程を速やかに提示し、故郷から離れて暮らしている住民の将来への見通しが1日でも早くなされる事を願っております。当協会員各会員様に置かれましては、震災直後から、国や自治体と一緒に、復旧・復興に取り組んでいるところと思われませんが、今後とも、地盤に関する専門業者として、更なるご尽力を賜りたいと思っております。

ところで、昨年末には政権が交代し、①経済再生②復興③危機管理を掲げた安倍総理が誕生し、「デフレからの脱却」を

目指し、長引くデフレと円高から脱却するための経済再生として、大型の補正予算と今年度予算を組むことを宣言した結果、「アベノミクス」現象が起こり、現在、「100円を越す円安」「14000円を越す株価の上昇」という好景気を予想させる現象が続いております。復興・防災に関しても多くの予算が計上されており、平成25年度は、業界および協会にとって、極めて忙しく、大事な1年になるものと思われれます。この機会に、発注機関だけでなく広く国民、市民に、「安全・安心で豊かな美しい東北」を目指している当業界、当協会の存在を積極的にPRしていきたいものと思っております。

一般財団建設経済研究所による建設投資の4月の見通しとして、「今後は、政府建設投資における多額の震災関連予算の執行と民間建設投資の緩やかな回復により、回復基調の継続が予想される。しかし、復興事業には未だ多くの課題が残り、民間建設投資もその水準は依然として低い」とコメントされております。建設投資は、H24年度が、前年度比6.4%増44兆円（ピークH4年度84兆円の52%）、H25年度が、前年比7.6%増の47兆円を予想（ピーク時の56%）しております。政府建設投資は、H24年が、国の直轄・補助事業費が復興特別予讃を含め15.7%増、地方単独事業費が3.8%増で、全体で10.2%増の18兆円と予想され（ピークH7年35兆円の55%）、H25年度が、前年度比9.8%増の20兆円を超えるものと予想（ピーク時の57%）されております。このように、名目建設投資は全体で増加の傾向にありますが、それでもピーク時の50%を越す程度にしかありません。

先週、全地連の理事会があり、その時の資料で、調査業の現況報告があり、過去10年の受注額の推移をみますと、サンプル150社全体で平成14年度が1100億円あった受注額が、年々落ち込み、平成23年度は659億円にまで減少し、この10年で60%にまで低下したことになりました。H24年度は、対前年度比9.8%増の724億円であり、やっと66%にまで回復

したこととなります。東北地方の受注額は、H23年度は対前年度比59%増99億円と大きく増加しましたが、H24年度は12%増111億円であり、あまり大きな増加にはなりませんでした。

全地連は、昨年から一般社団法人として新たに出発しましたが、会員数は昨年度より7社少ない572社となっております。一般社団法人へ移行した事を契機とし、新たな枠組みにより、“一般市民”へ向けた情報提供活動や提言を積極的に行う事が新たな使命となりました。「社会に認知される団体活動」、「社会のニーズにあった業界活動」を目指しながら、緊張感を持って事業に取り組んでいるところです。平成24年度の新規事業として、①応用地形判読士の検定試験、②地質技術顧問(ジオアドバイザー)制度の試験運用、③地質情報の法制化活動、④道路防災点検講習会などが実施されました。一方、H25年度の主な新規事業としては、①機関誌「地質と調査」の無料配布、②「日本ってどんな国」の合本版の製作、③新資格制度「地盤品質鑑定士」を地盤工学会との共同運営、④ジオアドバイザー制度の積極活用、⑤全面改訂版積算資料の発行、⑥全地連 e-learning センターの本格運営、⑦全地連50周年記念事業などが計画されております。

東北の平成24年度の地質調査業は、震災関連の事業が集中して非常に多く発注されたため、ボーリング機械や技術員の不足を招き、年度末の更なる多くの業務の発注への対応が極めて困難になる事が懸念されておりました。そこで、当協会では会員皆様のご協力の下、アンケート調査を実施し、実態を把握し、国交省及び自治体にその報告と要望を行い、発注についてのご検討をしていただきました。その他、特筆事項と致しまして、①11月の「臨時総会」の復活、②「東北地整局」、「宮城県」とのそれぞれの意見交換会の実施、③「応用地形判読士」の検定試験、④「除染に関する講習会」、⑤「九州地質調査業協会研修視察案内」などがあげられます。会員企業様に置かれましては多くの

業務に取り組んでいる最中に、ご協力を賜り、活発な協会活動を無事に実施する事が出来ました。平成25年度の事業計画としては、①復活した「臨時総会」を継続させるなど大部分が24年度事業の継続になりますが、②平成26年度に秋田で開催される「技術フォーラム」開催に向けての準備も始まります。

総会議案として、H24年度の事業報告・会計報告とH25年度の事業計画案・予算案、会費の見直し案および役員改選案などを提出しましたので、皆さまの忌憚のないご意見とご審議をお願いいたします。『明るく活力のある元気な協会・会員による東北の復旧・復興』を目指すとともに、会員皆様のますますのご多幸を祈念して、簡単ではありますが総会開催の挨拶といたします。

2. 議事

議長：早坂理事長
議事録署名人：ダイヤコンサルタント
東北支社
千葉 和夫 氏
国土防災技術(株)
東北支社
山科 真一 氏

第1号議案 平成24年度事業報告

平成24年度事業に関して、村上事務局長より報告があった。

以上、第1号議案について、異議なく承認された。

第2号議案 平成24年度収支会計報告及び監査報告

収支決算について村上事務局長より報告があり、引き続き菅井監事から監査報告書に記載の通り相違ないとの報告があった。

以上、第2号議案について、異議なく承認された。

第3号議案 平成25年度事業計画案

事業計画案の「役員会」「総務委員会」については村上事務局長より行われ、「技

術委員会」については新田技術委員長より、「広報委員会」及び主たる行事予定については高橋広報委員長よりそれぞれ報告があった。

以上、第3号議案について、異議なく承認された。

第4号議案 平成25年度以降会員会費ランク見直しの件

村上事務局長から、会費見直しについて提案説明があった。

営業収入と会員ランクおよび月額会費に基づき、平成25年度以降の会費について4月12日に説明文を送付したが会員から異論はなかった、と村上事務局長から報告があった。

以上、第4号議案について、異議なく承認された。

第5号議案 平成25年度予算(案)

村上事務局長から、総額30,749,639円について提案説明があった。

昨年と大きく違う点は、平成26年度に秋田で開催される「技術フォーラム」準備費とし1,000,000円、全地連50周年記念事業に備えるためと3,000,000円を計上した点についての説明があった。

以上、第5号議案について、異議なく承認された。

第6号議案 役員改選について

各県理事から報告があり下記の役員変更の説明があった。

理事の変更(新任)

理事 山形県 奥山 清春
〔株新東京ジオ・システム〕

理事長、副理事長の変更(新任)

理事長 高橋 和幸
〔旭ボーリング株〕(新任)

副理事長 奥山 和彦
〔奥山ボーリング株〕(留任)

以上、第5号議案について、異議なく承認された。

新理事長の挨拶

ただいま理事会において新理事長にご推挙いただきました旭ボーリングの高橋でございます。

創立からまもなく55年目を迎える、この伝統ある東北地質調査業協会の理事長に私のような若輩者を選んで頂いたことに、ただただ恐縮しております。

早坂理事長はじめ歴代の理事長、そして会員の皆様がこれまで築き上げ積み上げてきた協会としての数々の実績に敬意を表するとともに、それを汚さぬよう、これから一步一步進んでまいりたいと思います。

今後も会員の皆様から必要とされる協会であるためには、どうすればよいのか。市民に地質調査業の重要性を知ってもらうために出来ることは何か。

協会創立以来のテーマではありますが、諸先輩の皆様のご意見に耳を傾けながら、あるいは同年代の皆様のご協力を頂きながら進めていきたいと思っております。

これから精一杯努めてまいりますので、どうかよろしくお願いいたします

その他

総会の審議内容が多いので、総会資料の事前送付について意見が出されたが、議事は滞りなく終了し、総会は幕を閉じました。

総会終了後は懇親会に席を移し、早坂理事長挨拶の後、大友理事から新理事長・新委員の紹介と挨拶が行われた後、乾杯発声で宴会となりました。各テーブルでは復興に向けての近況を話しあうなど、会員相互の親睦を深め、大いに盛り上がりました。最後に奥山副理事長の締めでお開きとなりました。